

(資料2 ITNのスタンダードの説明表)

www.internationaltennisnumber.com

ITN	ITN 比較	各回 レイティング	全般的な競技レベル	サーブ	リターン	ベースラインゲーム	アプローチ/ネットプレイ	ネットプレーヤーをパスする
1	エリート		<ul style="list-style-type: none"> ATP/WTAランキングの保持者、または可能性のある者 国際水準のトーナメントに参加し、主たる収入がトーナメントの賞金であるワールドクラスのプレーヤー 大規模なトーナメントの経験がある 					
2			<ul style="list-style-type: none"> 相手の弱点を分析し、見抜くことができる 戦略とプレースタイルを変化させ、プレッシャーの在る状況で自信を持ったショットが打てる。 通常、その層の上位ランキング者 	<ul style="list-style-type: none"> 1stと2ndサーブがプレッシャーのある状況で打て、いつでも攻撃的に打てる。 	<ul style="list-style-type: none"> フォア、バック両サイドの予測力がある 相手の準備動作、トス、バック・スイング、身体の位置から手がかりをつかめる。 	<ul style="list-style-type: none"> プレッシャーのある状況で自身のあるショットが打てる。 フォアハンド、バックハンドで攻撃、逆襲、防御を効果的にできる。 あらゆる種類のショットをプレーできる。 	<ul style="list-style-type: none"> スライス、またはドライブのアプローチができる。 ネットでの予測がよく、コートセンスが高い。 効果的にアンクルを使い、あるいは深くプレーできる。 攻撃的なボレーができる。 スマッシュは、必ずウイナーである。 バックハンドオーバーヘッドスマッシュが強力。 	<ul style="list-style-type: none"> バックサイド、そしてサーブのリターンでその場に応じて、上手くパスする。 2ショット・バッキング・コンビネーションを効果的に使える。
3	上級者		<ul style="list-style-type: none"> 優れたショットの予測と優れたショットを返し、安定性、あるいはゲームの基本となる特質を持っている。 プレーヤーは、試合巧者、つまり、パーセンテージを落とし、サービスマットを必要とするときで、あるいは、次のショット・ポイントでサービスマットのエラーを引き出せる。 	<ul style="list-style-type: none"> サーブは、相手の弱点に打たれ、あるいは、攻撃的な状況に展開するために、効果的に打たれる。 信頼できるサーブの種類を持つ。 十分な深さ、スピード、そしてプレースメントで難しいリターンを求め、あるいは、次のショットを組み立てるための2ndサーブを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 攻撃的そして、オフ・ベースなサービスマットを、コントロールでき、深く、スピンを混ぜて打てる。 	<ul style="list-style-type: none"> フォアハンド・ストロークは、コントロール、深さ、スピードを伴い、強力。 攻撃的な状況を作り出すためにフォアハンド・ストロークを使う。 安定した攻撃ショットとしてバックハンド・ストロークを使う。 ほとんどのショットが十分な深さと、方向性を持つ。 タッチショットを習得している。 スピンの種類がある。 	<ul style="list-style-type: none"> アプローチショットは、ベースと高い有効性をもって放たれる。 ほとんどのボレーは、深さとベースと方向性を持って打たれる。 強い、難しいボレーをプレーできる。 チャンスがあれば、ボレーは、ウイナーとして打たれる。 スマッシュは、どこからでも打てる。 安定性のあるミッドコートボレーを打てる。 	<ul style="list-style-type: none"> バッキング・ショットが安定し、ベースと高い有効性を持って、バッキング・ショットを打てる。 2ショット・バッキング・コンビネーションが打てる。
4			<ul style="list-style-type: none"> 安定したプレーで、効果的に加速、スピンをかけ、ベース配分ができる。 優れた予測、正しいフットワークができ、弱点をよく、カバーできる。 ショットの深さをコントロールでき、相手に対応してゲーム・プランを変化させる。 難しいショットに対して、不確かであるが、1stサーブのパワーと正確性と2ndサーブのコースを打ち分けられる。 ダブルスにおいて、攻撃的なプレーができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 攻撃的なサーブを持ち、ダブル・フォールが少ない。 特に1stサーブのとき、攻撃的な組み立てをするために、パワーとスピン・サーブを効果的に使える。 2ndサーブがよい位置に深く打つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手が攻撃的なリターンができる。 ダブルスにおいて、普通にベースを変えることができる。 チップとドライブができ、チップとチャージができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常に安定した(自信あふ)フォアハンド・ストロークを持つ。 スピードとスピンを効果的に使う。 深さのコントロールはあるが、あわたり、プレッシャーがかかるか、オーバーヒットする。 中程度のショットでは攻撃的。 バックハンドは、方向と深さをコントロールできるが、プレッシャーを受けると崩れる。 かならずスライスができる。 	<ul style="list-style-type: none"> アプローチショットは、深く、コントロールされ、打たれる。 一連の狙ったボレーを繰返す。 バックハンドボレーで、深さがあり、方向のコントロールが良い。 ポイントを決めるためにボレーとスマッシュを安定して打てる。 タッチショットを習得し、フットワークに慣れる。 だが、最も一般的なエラーは、オーバー・ヒッピング。 	<ul style="list-style-type: none"> 防御的、そして攻撃的なロブを打てる。 かなり高い確率でネットプレーヤーをパスできる。
5			<ul style="list-style-type: none"> 優れた安定性(種々なグランド・ストローク)、普通のショットでフォアハンド、バックハンド両サイドの方向と距離のコントロールができるが、ラリーは、犠牲者にならずにミスする。 ロブ、スマッシュ、アプローチショット、ボレーが使える、時々、成功する。 コートカバリングを習得中で経験をつみ、戦術に注意を払うが、まだ優れたパーセンテージをプレーできない。 時々、サーブのとき、サービスマットのエラーを引き出せる。 ダブルスのゲームワークが理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1stと2ndサーブのプレースメントがよい。 1stサーブが、しばしばパワーフルである。 スピンを増し、使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 信頼できるサービスマットが少なくない。 シングルスで、難しいリターン、ダブルスでいるいるようなリターンができる。 	<ul style="list-style-type: none"> フォアハンド・ストロークは、安定し、中程度のショットは深さとコントロールできるが、プレッシャーのあるとき、コースの配分ができない。 バックハンド・ストロークは、中程度のスピードで安定して、ボールの方向性がよい。 スピンを習得し、トップスピンとスライス両方を打てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ネットへ攻撃的なショットで前進する。 フォアハンド・ボレーの深さとコントロールがある。 バックハンド・ボレーの方向性はいいが、一般的に深さを欠く。 両サイドのワイドのボレーと高いボレーを打てるように習得中。 簡単なスマッシュを処理できる。 ダブルスのボレーができる。 ポイントを決め始める。 相手の弱点に打てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 難しいショットに対し、防御的なロブを打ち、攻撃的なポイントの組み立てを行う。
6	中級者		<ul style="list-style-type: none"> 普通のショットの方向コントロールの安定性を持った、改良されたストロークを習得中だが、深さと、変化がまだコントロールできない。 コートカバーが上進しているが、前に出る時、まだためらいがある。 ダブルスのチームワークを習得中。 	<ul style="list-style-type: none"> コントロール・サーブと、しばしばパワー・サーブを習得中。 スピンを習得中。 	<ul style="list-style-type: none"> 中程度のベースで方向性のコントロールのある安定したサービスマットが打てる。 	<ul style="list-style-type: none"> フォアハンド・ストロークは、極めて安定し、中程度のショットで変化をつけ、方向性がよく、スピンをプレーできる。 バックハンドは、中程度のショットで方向のコントロールをもって打たれるが、深く、そしてハードショットに対して、難があり、防御的な打球となる。 バックハンド・ドライブかスライスの一方を確信して使う。 	<ul style="list-style-type: none"> アプローチショットを習得し、ネットに出るチャンスを探し始める。 より攻撃的なネットプレー。 フォアハンド・ボレーの方向性を持ち、バックハンドボレーのコントロールはできるが、攻撃的でない。 ボレーでポイントを決め、ハーフボレーをプレーすることは難しい。 バッキング・ショットは少しカバーでき、かなりのフットワークができる。 深く範囲の安定したスマッシュ。 	<ul style="list-style-type: none"> 高いベースのショットで、かなり安定したロブを打てる。 基本的なバッキング・ショット能力を習得するが、バックハンドのパスが難しい。
7	中級者		<ul style="list-style-type: none"> 普通のベースのショットにかなりの安定性をもつが、全てのショットをうまくプレーできず、方向性、深さ、パワーのコントロールを欠く。 シングルスでの試合は、ベースライン主体に行い、最も一般的なダブルスのフォーメーションは、一人が後衛、他の一人が前衛。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムを習得中だが、パワー・サーブのとき、不安定。 2ndサーブは、1stサーブよりかなり遅い。 	<ul style="list-style-type: none"> かなりの安定性を持って大部分がコートの中央に打てる。 	<ul style="list-style-type: none"> フォアハンドは、方向性に集中し、かなりの安定性を持つが、深さのコントロールに乏しい。 バックハンドは、中程度のショットでかなり安定性し始める、多くのボールがコート中央に方向づけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> プレーが要求するとき、ネットにアプローチするがそれを実行するために習得が必要。 安定したフォアハンドボレーを持つが、バックハンドボレーの安定性を欠く。 ローボレー、ワイドボレーが難しい。 時々、ポジションから外れ、大きすぎるスイングをしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 中程度のショットでかなり安定したロブを打ち、ドライブの代わりにサービスマットにロブを使う。
8	レクリエーションプレーヤー		<ul style="list-style-type: none"> ボールがどこにも飛ぶか判断することを学ぶが、コートカバリングは、まだかなり習得が必要。 同じレベルのプレーヤーとプレーするとき、このプレーヤーは、かなりの安定性を持って、スローベースのショットラーである。 ダブルスのとき、初歩的なダブルスのポジションを維持できる。 	<ul style="list-style-type: none"> フルスイングを試みる。 1st、2ndサーブのベースの違いがほとんどない。 スローベースでボールをインプレーできる。 安定したスライスが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> スローベースのサーブに少しリターンができる。 短いフォロー・スイングが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> フォアハンドのフォームが上進する。 プレーヤーは、中程度のベースのショットに対して、構えられ、準備される。 バックハンドグリップと準備の問題が、明らかで、プレーヤーは、バックハンド・ストロークよりもフォアハンド・ストロークを好んで選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に迫られたときだけ、ネットにアプローチする。 ある程度の自信を得るためにネット練習の時間が必要。 特にバックハンドサイドのネットでの自信がなく、バックハンドボレーをプレーするとき、ラケット面のフォアハンドサイドを使ってしまう。 スマッシュのコンタクトができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ロブを習得始めるが、コントロールに乏しい。 相手のバックサイドにだけロブを打つ傾向がある。
9			<ul style="list-style-type: none"> コート上での経験が必要。 ストロークは、時々、成功するが、ストローク力の弱さは、明らか。 シングルス、ダブルスのプレーで、基本的なポジションを取れるが、さらにより良いポジションをとる必要があり、まだ、ベースラインでのプレーを好む。 このプレーヤーは、試合のプレーに没頭する。 基本的なルールとスコアのつけ方を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> サービスマットの動作が滑らかでなく、さらにコーディネーションが必要。 頻りにダブル・フォールをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 無駄なエラーを減らすために安定したサービスマットが必要。 フォアハンド・ストロークでリターンの大部分を行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> フォアハンドは、より完璧なスイングとより方向性の集中を必要とする。 バックハンドでプレーすることを避け、バックハンドサイドの技術的な問題(例: グリップ、スイング、コンタクト)を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> アプローチショットとネットプレーに慣れていない。 もっぱらフォアハンドボレーに専念し、スマッシュのコンタクトの問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めてロブを打つのが難しい。 パスに慣れていないが、相手の正面に向かってボールを打ってしまふ。
10			<ul style="list-style-type: none"> このプレーヤーは、正式な大きさのコートで、ITF公認のボールを使用して、競技としてのプレー(サーブとリターン、ラリー)ができるようになる。 					
10.1			<ul style="list-style-type: none"> プレーヤーは、動き、コントロールしてラリーができる。 					
10.2	初心者		<ul style="list-style-type: none"> プレーヤーは、茶たボールに対して、きちんと打撃しながら、簡単なテニススキルを行えるが、動きと、コントロールをしてラリーはまだできない。 		<ul style="list-style-type: none"> ITN 10.1からITN10.3までのカテゴリは、通常認知された環境、つまり、小さいコートで中々からかいボールを使用する、あるいは適切な、プレーヤーに合ったラケットを使用する環境でプレーすることを含む。 			
10.3			<ul style="list-style-type: none"> プレーヤーは、テニススキルの育成の初期段階で、単純なテニスのコーディネーション/エクササイズを初めて学ぶ。 					

※ 旧レイティングの4. 0は、ITNスタンダードでは6. 0に相当する

※ 指導員養成講習会受講者の実技レベル目安は、ITNスタンダードで6. 0程度あることが望ましい。

※ 上級指導員養成講習会受講者の実技レベル目安は、ITNスタンダードで5. 0程度あることが望ましい。